

- 第1部では、前回（第8回）のギフテッド（異才）や発達に特徴のある児童生徒に関する議論に続き、特に「ギフテッド、かつ発達障害」という2E（twice-exceptional）の児童・生徒の課題を取り上げる。EdTechとデータを活用し、如何にして2Eも含む全ての児童・生徒を包摂し個別最適化した教育を構築すべきか議論したい。
- 第2部では、第2次提言の策定に向け、事務局資料と委員提出資料をもとに議論を進めたい。

1. 個に応じた能力開発を可能にする学習環境（2E・ギフテッドの課題をもとに）

ギフテッド（異才）の中でも、発達障害を伴う2E（Twice - Exceptional）は、ややもすれば「発達障害」という側面からの療育的な支援ばかりが施され、その才能を丁寧に育む機会に恵まれないリスクがあるのではないかと懸念されている。

今回は特に2Eの事例を取り上げるが、それにとどまらず全ての児童生徒の認知特性や発達の特徴を踏まえたきめ細かな育成を進めるには、EdTechやデータを用いてどのような対策が必要か。

2. 第2次提言に関する議論

事務局作成の第2次提言の骨子（案）にある3つの大きな論点について、委員提出資料についてもそれぞれ御提案をいただきつつ、第2次提言に取り込むべき内容について、漏れなく議論したい。

※今回の積み残し論点は、次回（最終回）まとめて議論することとしたい。